

※今月のみ受注の書目です。

経済史

慶應義塾大学東アジア研究所叢書  
穀物の東アジア経済史（仮）

（2025 年 10 月上旬刊行予定）

篠根拓人（慶應義塾大学経済学部准訪問研究員）・

前田廉孝（慶應義塾大学文学部史学系日本史学専攻准教授）[編著]

A5 判上製／272 頁 税込予価 6,600 円 ISBN978-4-7664-3071-4 C3033

👉 ココに注目！

- ・日本を中心とした戦前の東アジアの穀物流通網の全体像を把握。
- ・膨大な穀物取引データを数量的に分析した数量経済史の最前線。
- ・「帝国日本」の経済を支えた穀物流通の実相に迫る。

本書は、戦前日本の東アジアにおける穀物の生産・流通・価格形成を、植民地政策や都市化と絡めて多角的に解明する研究書。港湾統計・商社史料・鉄道データなどを駆使し、「帝国日本」経済圏の食糧調達の自立過程を実証的に描き出した 1 冊。

**対象**（経済・東アジア史を研究する）学生／研究者

**類書** 前田廉孝『塩と帝国』（名古屋大学出版会）

【営業部からのおすすめポイント】

自給率の著しい低さなどに象徴される、食料安全保障は現在の大きな社会課題です。本書は、その背景の理解に不可欠な穀物流通の歴史を解明します。特に近代東アジアにおける広域的な穀物経済の発展が、日本の植民地政策が食料自給体制にどう結びついたかを、多岐にわたる資料・統計データを用いて定量的に把握できる点が本書の魅力です。

（吉川）

👉 主要目次、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

## 【主要目次】

### 序章 篠根拓人

### 第1章 近代東アジア米穀市場における多角的供給構造 篠根拓人

### 第2章 両大戦間期の東アジアにおける穀物貿易と日本商社 谷ヶ城 秀吉

### 第3章 両大戦間中国における湖南米流通 ——長沙・上海市況を事例に 篠根拓人

### 第4章 朝鮮・咸鏡南道の輸入粟需要 ——鉄道拡張・工業化との関係 竹内 祐介

### 第5章 近植民地産品流通の地理的不均一性と商品価格形成 ——1900-39年東京・大阪・熊本米価と朝鮮米 前田廉孝

### 終章 前田廉孝



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



| 新刊委託 | 番線 | ご注文部数 | 発行所：慶應義塾大学出版会                                                                   | 税込予価    | 部数 |
|------|----|-------|---------------------------------------------------------------------------------|---------|----|
|      |    |       | 篠根拓人・前田廉孝 編著<br>慶應義塾大学東アジア研究所叢書<br>穀物の東アジア経済史(仮)<br>ISBN978-4-7664-3071-4 C3033 | 6,600 円 | ★★ |

★1つで「500部」を表します